

長野市公共交通の在り方調査研究及び自動運転技術導入可能性調査業務委託仕様書

交通政策課

1 委託業務名

長野市公共交通の在り方調査研究及び自動運転技術導入可能性調査業務委託

2 業務目的

長野市では、令和4年9月に長野市地域公共交通計画を策定し、市が関与するバス及び事業者の自主路線の在り方を再考するとともに、目指すまちの形成に寄与し、バランスのとれた地域公共交通網の実現を目指してきた。

しかし、近年、人口減少や超高齢化社会の更なる進展、新型コロナウイルス感染症拡大後のバス利用者の激減、更には運転士不足による民間バス事業者の基幹補助路線からの撤退など、現水準での公共交通での移動手段確保が非常に困難な状況に陥っている。加えて、近年のインバウンド需要の増大から、民間バス事業者は生活路線から観光路線へと注力する傾向となっている。

自動運転技術については、産学官一体による技術検証や国等による法整備の検討などが急速に進められており、全国各地でも導入に向けた実証実験が行われ、人手不足や地域の足の確保等、地域公共交通が抱える課題に対する解決手段として期待されている。

このような背景を踏まえ、本市の公共交通が抱える様々な課題に対し、将来にわたって持続可能な公共交通の抜本的な在り方について調査研究し、令和8年度に策定する第二期長野市地域公共交通計画において、その方向性を定める基礎資料として活用するとともに、本市での自動運転技術の導入可能性を検証するため、本調査を実施するもの。

3 業務場所

長野市全域

4 業務期間

契約を締結した日から令和8年3月31日までとする。

5 業務内容

(1) 地域及び公共交通の現況整理・分析

ア 地域特性の現況整理

令和4年9月策定の長野市地域公共交通計画及び既存の統計データ等から本市の人口推移、地区別人口、人口分布、生活関連施設等の立地状況、人の移動状況、公共交通ネットワークの状況などを整理する。

イ 公共交通の現況整理・分析

本市や交通事業者からの提供データ等を基に公共交通の運行状況、利用状況、収支状況等を整理・分析する。必要に応じて関係者へのヒアリング等を実施する。

ウ 上位・関連計画等におけるまちづくりの方向性の整理

長野市総合計画、長野市都市計画マスタープランなどの上位・関連計画におけるまちづくりの方向性、公共交通の位置づけなどを整理する。

(2) 将来に向けた公共交通の在り方の調査研究

ア 民間事業者と行政等が担う望ましい運営方法

路線バス、コミュニティバス、乗合タクシーなどの路線種別及びエリア別の公共交通ネットワークの方向性について、全国各地の公共交通の運営方法や市内公共交通の運行状況等を調査分析し、本市にとって最適な運営手法等を比較検討する。

(ア) 短期（1～3年）、中長期（3年～10年）の各フェーズを見据えた公共交通の在り方の方向性

(イ) 民間自主運行、民間委託運行、公共ライドシェア、公営企業化等の地域別及び路線種別での最適な運営方法の比較

(ウ) 民間事業者が公共交通を縮小した際の地域特性に応じた代替交通の補完手段

イ 運営方法別での公共交通維持に向けた効果的な行政支援

全国各地の公共交通の行政支援及び市内公共交通の支援状況等を調査分析し、本市の状況として最も効果的な支援方法の調査を実施する。

(ア) 民間事業者が乗合バス事業を安定的に運営するための仕組み・方策

(イ) 運転士不足や人口減少を見据えた路線（エリア）の持続的な公共交通維持・確保の方策

(ウ) 将来にわたって公共交通を維持するための地域住民が取り組む方策

ウ 令和8年度の第二期地域公共交通計画策定に向けた基礎調査

令和4年度に策定した長野市地域公共交通計画及びその後の公共交通を取り巻く現状等を調査分析し、令和8年度中の計画策定に向けて事前研究や整理が必要な事項について調査研究を実施する。

(3) 自動運転技術導入に向けた可能性調査

ア 自動運転サービス導入可能性検証に向けた基礎調査

本市の人口動態、地域特性及び地域公共交通を取り巻く現状を整理し、自動運転サービス導入対象エリアや運行ルートを検討する上での基礎データの収集・整理を行う。

イ 自動運転サービスに関連する最新動向の整理

国土交通省等において、自動運転社会実装を推進するための様々な事業を実施しており、本市での自動運転サービス導入に向け、国等の活用可能な事業やその条件整理、先進事例等について調査研究を行う。

- (ア) 自動運転に関する技術動向（車両の特徴、コスト等の比較）
- (イ) 自動運転に関する制度環境（交通規制、法制度）の整理
- (ウ) 自動運転に関する国等の補助事業（本市での活用可能な事業）
- (エ) 自動運転に関する全国的な取組事例

ウ 自動運転サービス導入の検証経路における実現可能性・優位性・効率性の分析

本市での自動運転サービスの導入に向けて、上記の調査結果等を基に市内3カ所程度※を設定し、自動運転サービスの実現可能性について調査・分析を行う。また、その路線毎にコスト面、安全面や運行可否等について比較検討を行う。

- ※想定経路：①長野駅～善光寺大門、②中心市街地ぐるりん号運行経路、
③長野駅～長野赤十字病院、④その他適合経路

エ 自動運転サービス導入に伴う交通等への影響及び効果、課題解決の分析

市民生活の移動、観光地への移動、市内企業の移動など、ウの導入検証経路について目的別にその導入効果等を分析する。

オ 実証運行実施体制の構築支援

実証運行の実施に向けて必要となる実施体制を構築するため、その体制構築に向けての関連企業への意向確認や役割分担の明確化を実施する。

カ 実証運行計画の立案

ウで比較検討した路線において、実証運行時に使用する車両や停留所、ダイヤ、検証・評価項目、実施スケジュールなどの運行計画を立案する。

キ 本格導入に向けたロードマップの作成

令和8年度以降の実証運行を含め、本格導入に向けた年度別での実施内容や準備作業を精査するとともに、各年度の概算費用を明示したロードマップを作成する。

(4) 報告書等の作成

- (1)、(2) 及び (3) で調査研究した内容について報告書を作成する。